ESOTERIC

D-03

D00880800C

目　次

エソテリック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

エソテリック製品は、最良の音質で末永くお使いいただくために、一台一台を厳しい品質管理のもとに製造しております。最良のコンディションでお使いいただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに保証書と一緒に大切に保管してください。

末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

特　長

スーパーオーディオCD/CD再生での頂点を目指すエソテリックならではの、新たな音楽再生の可能性を追求したセパレートD/Aコンバーター

DSDストリーム信号や192kHz/24bitのハイサンプリングPCM信号などの大情報量データを、余すところなく高音質再生。
特にスーパーオーディオCDの持つ空間表現や余韻成分の再生にこだわって開発されました。

DSD入力対応DAC「AD1955」を採用

DACデバイスにはDSD·PCM対応DAC「AD1955」を採用し、差動構成で使用。
スーパーオーディオCDならではの空間感と滑らかな音質を引き出し、CDにおいても優れた音質を獲得しました。

完全モノーラル仕様「D-01」から受け継いだ思想とメリット

D-01で得たノウハウを随所に活かしています。

- アナログ用電源トランス→アナログ電源→アナログオーディオ回路を左右独立に、全く同じものを同じ経路で配置。
- アナログ出力部分には大電圧の電源を用いたディスクリート回路を採用。
- 電源トランスには高効率オーディオ用Rコアトランスを、デジタル用×1、アナログ用×2、合計3基使用。アナログ電源の安定化回路にはディスクリート回路を採用。
- デジタルフィルターOFF機能搭載。

ストレートな信号伝達

デジタル領域、アナログ領域ともにストレートな回路構成を採ることで、音の鮮度を落としません。
ジッタ除去回路にはデータ演算を行わないRAM-Linkを採用し、デジタルフィルタにはOFF機能を設けました。
アナログ領域では、通常のFs/2付近のアナログフィルタは廃止し、切換え回路や調整回路は一切ありません。このほか電源部分など、随所にフィルタリング要素や伝送経路の最適化を行っています。

豊富な入力に対応するインターフェース

S/PDIF、AES、i.LINKなど多彩なフォーマットに対応し、CDはもとよりスーパーオーディオCD、DVDオーディオなど幅広い機器と接続可能です。

- すべての入力端子で192kHz/24bitの入力が可能です。
- スーパーオーディオCDからのDSD信号は、ESOTERIC独自のフォーマットES-LINKまたはi.LINKを使って入力されます。
- AES DUALまたはES-LINKのフォーマットで入力する場合は、XLR端子2個を使用します。この場合はL/Rが独立に伝送されます。
- i.LINKからマルチチャンネル信号が入力された場合は、「チャンネルセレクト」(15ページ)で設定したチャンネルの音声を選択します。

ワードシンク機能により、外部機器との同期運転が可能

ワードシンクは、ワードクロックを出力するOUTモードと、外部からのワードクロックに同期するINモードを装備しています。
内蔵の水晶発振器には、表現力を重視してD-03用に新設計した、大型クリスタル高精度VCXOを搭載。安定した高品位クロックはD/A変換用オーディオクロックとして供給され、かつワードシンク出力としてトランスポート機との高精度な同期運転を実現します。
さらに、ワードシンク入力はG-0sなどの超高精度 クロックに備え、最適化しています。
44.1、88.2、176.4、48、96、192、100(kHz)のワードクロックの入出力に対応しています。

RAM-LinkがDSDデータ対応に進化

ジッタを取り除くRAM-Link(Refined Asynchronous Memory Link)回路には、DSDデータ対応に進化させたRAM-Link IIIを新開発。
ワードシンクモードにすると自動的にRAM-Linkが働き、オーディオデータは前段までのジッタが除去されてからDACデバイスに入力されます。

主要な内部配線材に6N純度の銅線を使用するなど、さらなる音質を追及

- 高音質化に欠かせない主要な内部配線には、高純度6N銅のケーブルを使い、音の純度と分解能を高めています。
- デジタル入力RCAジャックにはピュアマテリアル(純銅＋金メッキ)を用い、75Ωデジタル伝送を実現するWBT社製「nextgen」、さらにアナログ出力RCA ジャックにもWBT社製「WBT-0201」を採用。
- 純銅にロジウムメッキを施し、さらに超低温処理を加えたハイエンドクオリティの電源インレットを採用。

音質に悪影響を与える内・外部振動を徹底排除する高剛性ボディコンストラクション

外装部にはフロントパネル、コーナー部・天板・側板に肉厚のアルミ材を採用し、底板の5mm厚鋼板にて筐体全体を受けESOTERIC独自の焼入鋼ピンポイントフット(特許出願中)で支持。内部シャーシはパーティション構造による筐体の高剛性・無共振化・電気ノイズの干渉防止を徹底しています。特にスピーカーからの音圧の影響を受け易い天板は8mm厚を使用し万全を期しています。

気品のあるショートスクラッチで仕上げた肉厚のアルミ材のフロントパネルと側板、ロゴを彫刻であしらった天板、さらにフロントからサイドに流れ込むデザインを採用したコーナー部は筐体の高剛性・無共振化と共に最高峰のスーパーオーディオCD/CD用2チャンネルD/Aコンバーターにふさわしい品位と風格を醸しだしています。

また、アナログ基板と出力ジャックに対する無理なストレスや複合的な振動モードを排除するために、出力ジャックは基板マウントとせずリアパネルにマウント。アナログ基板は内部シャシに、出力ジャックはリアパネルにそれぞれ固定され、メカニズム損失による音質劣化を防止しています。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

<table>
<tr><td> 警告</td><td>以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。</td></tr>
<tr><td>
電源プラグをコンセントから抜け</td><td>万一、異常が起きたら
煙が出たり、変なにおいや音がするときは。
機器の内部に異物や水などが入ったときは。
この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。
すぐに機器本体の電源スイッチを切り､電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店または弊社サービス部門に修理をご依頼ください。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">
禁止</td><td>電源コードを傷つけない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。
電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。
コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店または弊社サービス部門に交換をご依頼ください。</td></tr>
<tr><td>電源プラグにほこりをためない。
電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。</td></tr>
<tr><td>交流100ボルト以外の電圧で使用しない。
この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。</td></tr>
<tr><td>機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない。
内部に水が入ると火災・感電の原因となります。</td></tr>
</table>

警告	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。
分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない。** カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店または弊社サービス部門にご依頼ください。
強制	**この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。** **ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。** 内部に熱がこもり、火災の原因となります。

注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。
強制	**オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。** **また、接続は指定のコードを使用する。**
	電源を入れる前には音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器は約27kgあり大変重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにする。 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。
湿気やほこりの多い場所に置かない。
調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。
火災・感電やけがの原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない。
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

電源プラグをコンセントから抜け

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。
感電の原因となることがあります。

愛情点検

電源ケーブルや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
5年に1度は、販売店または弊社サービス部門に内部の点検をご依頼ください。
費用についてはお問い合わせください。

使用上の注意

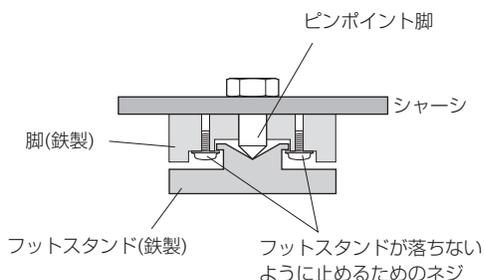
付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

電源コード×1
フェルト×3枚
取扱説明書×1
ご愛用者カード×1

設置について

本機の底板には、工具鋼を焼き入れ処理した高硬度ピンポイント脚と鉄製の脚が強固に取り付けられています。

フットスタンドはぐらついた状態になっていますが、設置するとピンポイント支持になり、振動を効果的に分散させます。

- 本機は大変重いので、設置の際は、けがをしないように十分ご注意ください。
- 床を傷付けたくない場合は、フットスタンドの裏に付属のフェルトを貼ってお使いください。
- 安定した場所に設置してください。
- 本機の上には物を置かないでください。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。

電源の極性管理について

本機はより良い音質を得るために、電源の極性管理をしています。付属の電源コードのプラグ部分に、PSE が刻印されている方がアース側です。

一般的に、家庭用電源コンセントの差し込み口は、長い溝の方がアース側です。PSE が付いている側の差し込み刃をコンセントの長い溝の方に差し込んでください。なお、極性管理されていない電源コンセントに接続するときは、電源プラグを逆に差し込んでみるなどの方法で音質の良い方を選択してください。

お手入れ

表面が汚れたときは乾いた柔らかい布で拭いてください。ひどい汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いたあと、固く絞った布で水拭きしてください。

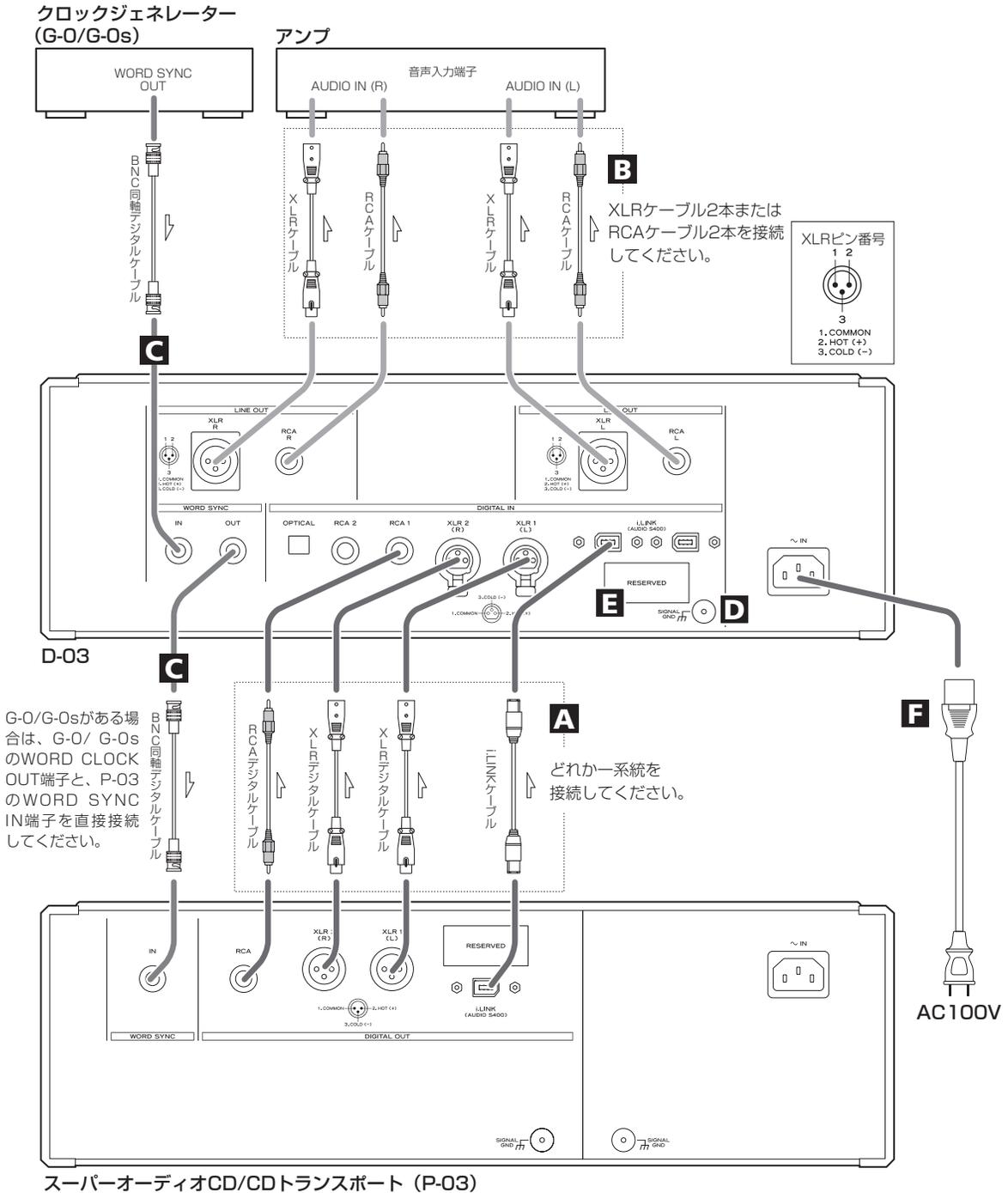
ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、キャビネットを傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ **お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

接　続

⚠ 接続時の注意

● 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
● 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

スーパーオーディオCD/CDトランスポート（P-03）

A デジタル音声入力端子

デジタル音声を入力します。
デジタル機器(P-01/P-03など)のデジタル出力端子と接続してください。

接続には市販のケーブルをお使いください。

XLR : バランス型XLRデジタルケーブル
RCA : RCA同軸デジタルケーブル
OPTICAL : 光デジタルケーブル
i.LINK(AUDIO) :
S400対応の6ピンのi.LINKケーブル
(IEEE1394ケーブル)

● i.LINK(AUDIO)端子は、接続した機器との双方向のデータ転送が可能なインターフェースです。入力/出力の区別はありません。
● XLRはDual AES対応です。お手持ちのデジタル機器がDual AESに対応している場合は、2本のケーブルを使って本機のXLR1(L)端子とデジタル機器のL端子、本機のXLR2(R)端子とデジタル機器のR端子をそれぞれ接続してください。

B アナログ音声出力端子 [LINE OUT]

アナログの音声を出力します。
アンプにXLRの音声入力端子がある場合は、市販のバランス型XLRケーブルを2本使って接続してください。

アンプにXLRの音声入力端子がない場合は、市販のRCAオーディオケーブルを2本使って接続してください。

C ワードシンク入出力端子 [WORD SYNC]

同期信号(ワード)を入力/出力します。

ワードシンク入力端子(WORD SYNC IN)は、クロックジェネレーターG-0/G-0sなど、ワードクロックを出力する機器のワードクロック出力端子と接続してください。

ワードシンク出力端子(WORD SYNC OUT)は、デジタル機器のWORD SYNC IN端子と接続してください。

接続には市販のBNC同軸デジタルケーブル(インピーダンスが75Ωのもの)をお使いください。

D アース端子[GND]

市販のビニール電線でCDトランスポートやアンプなどとアース接続すると、音質が良くなることがあります。
● 安全アースではありません。

E 電源コード

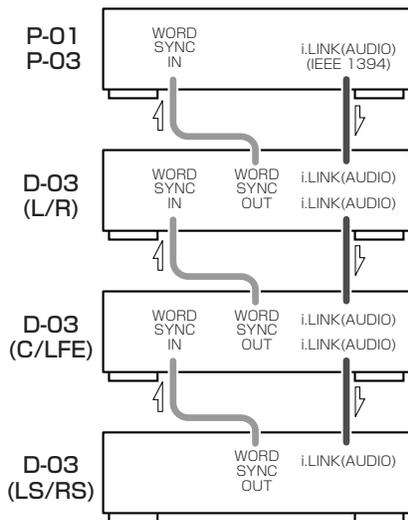
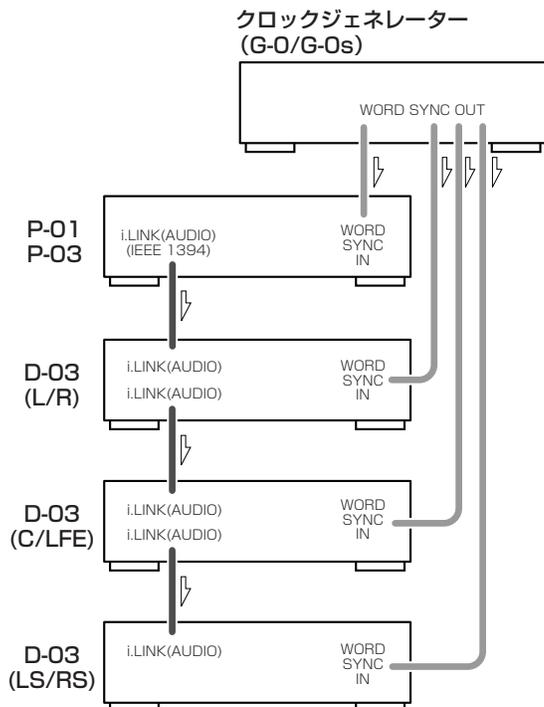
電源コード接続ソケットに付属の電源コードを差し込んでください。全ての接続が終わったら、電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
● 本機の電源コード接続ソケットは3ピン仕様になっていますが、アースピンはシャーシには接続されていません。

⚠ エソテリック純正の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

エソテリックでは、リファレンスとして**エソテリック MEXCEL ストレスフリー7N**ケーブルを使用しています。エソテリック **MEXCEL**ケーブルシリーズは、以下のものが発売されています。

RCAオーディオケーブル	XLRデジタルケーブル
XLRオーディオケーブル	BNCデジタルケーブル
RCAデジタルケーブル	スピーカーケーブル

接続例（複数のD-03の接続）

例1：クロックジェネレーターがない場合

例2：クロックジェネレーターがある場合

スーパーオーディオCDやDVDオーディオをダウンミックスなしでマルチチャンネル再生するためには、3台のD-03が必要です。

まず、スーパーオーディオCDトランスポート(P-01/P-03)のi.LINK(AUDIO)端子をD-03のi.LINK(AUDIO)端子と接続します。次に、D-03のもうひとつのi.LINK(AUDIO)端子を、もう1台のD-03と接続します。3台目も同様に、数珠つなぎに接続します(順不同)。
ワードシンク端子は例1のように接続してください(順不同)。

クロックジェネレーターG-0/G-0sを接続する場合は、G-0/G-0sのワードクロック出力端子(WORD CLOCK OUT)を、各機器のWORD SYNC INに接続してください(例2)。

P-01の設定

OUTPUTボタン	IEEE 1394
WORDボタン	IN (G-0sを接続した場合は、Rb IN)
UP CONVERTボタン	176.4/192

P-03の設定

デジタル出力	i.LINK
WORDボタン	ON

D-03の設定

INPUTボタン	i.LINK
WORDボタン	マスタークロックとして使用する1台目はOUT、2台目と3台目はIN。G-0/G-0sを接続した場合は、3台共IN。
W_OUT(設定)	176.4または88.2
CH_SEL(設定)	該当するチャンネル

G-0/G-0sの設定

周波数切換ボタン(A, B, C)	176.4kHzまたは88.2
FREQUENCY MODEボタン	44.1kHz

i.LINK（IEEE1394）

i.LINKとは、国際標準規格であるIEEE1394の別称です。
本機はi.LINK(AUDIO)に対応しています。
本機のi.LINK(AUDIO)端子にi.LINK(AUDIO)対応機器をi.LINKケーブルで接続すると、2chリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、従来アナログでしか伝送できなかったスーパーオーディオCDのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。複数のi.LINK対応機器を接続する場合、他の機器を経由して接続してもデータのやりとりが可能ですので、接続順序を意識する必要がありません。

著作権保護システムDTCP

i.LINKを使ってスーパーオーディオCDやDVDオーディオの音声を再生するためには、再生機器とD/Aコンバーターの双方が著作権保護システム DTCP (Digital Transmission Content Protection)に対応していなければなりません。
本機はDTCPに対応しています。

データ転送速度

i.LINK対応機器のデータ転送速度には、100Mbps(S100)、200Mbps(S200)、400Mbps(S400)の3種類があります。本機の最大データ転送速度は400Mbpsです。
接続には、市販のS400対応の6ピンi.LINKケーブルをお使いください。

複数の機器を接続するときに、データ転送速度の遅い機器を間に挟むと、データ転送速度が遅くなります。できるだけデータ転送速度が同じ機器を上流に並べて接続してください。

フローレートコントロール

本機はi.LINKフローレートコントロール伝送方式に対応しています。フローレートコントロールとは、i.LINK入力より伝送されたオーディオデータを本機内部に設けられたRAM内に一旦蓄積し、本機内蔵の高精度クロックを使いデータをRAMから取り出すことにより、i.LINK伝送時に発生する伝送ジッターを取り除く伝送技術です。再生機と本機とのクロック周波数の誤差により、内蔵のRAMのデータ蓄積が一定量よりも大きくなったり、小さくなったりした場合は、本機より再生機に対して、データ伝送の速度を変化させるコマンドを伝送し、本機が再生機をコントロールします。
フローレートコントロールは、対応プレーヤーとの1対1伝送時に機能します。

注意

- i.LINKの伝送フォーマットには、本機の「i.LINK (AUDIO)」(A&Mプロトコル)の他に、BSデジタルなどの「MPEG-2 TS」、DVDレコーダーやデジタルビデオの「DV」などがあります。本機にi.LINK(AUDIO)非対応の機器(パソコンの周辺機器など)を接続すると、誤動作や故障の原因になりますので、絶対に接続しないでください。
- データ転送中は、つながっている機器のi.LINKケーブルを抜き差ししたり、電源をオン/オフしないでください。
- i.LINK対応機器によっては、電源がオンになっていないとデータを中継できないものがあります。
- i.LINKに対応していても、機器によっては動作しないことがあります。
- 受信側の機器が本機の出力モードに対応していないことがあります。接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

複数のi.LINK機器を接続するには

デイジーチェーン接続（数珠つなぎ）

数珠つなぎに一列に接続する場合は、本機を含めて17台まで接続できます。

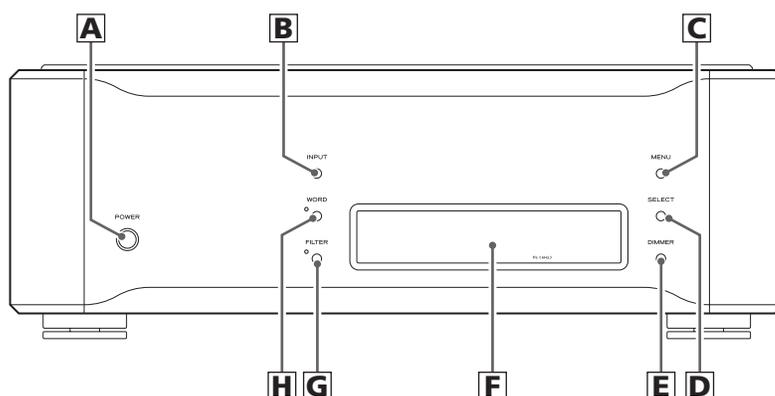
ツリー接続

i.LINK端子を3個以上備えている機器がある場合、途中で分岐して接続することもできます。本機を含めて17台まで接続できます。

信号を出力した機器に、同じ信号が戻ってしまうと動作しません。
接続が輪(ループ)にならないように注意してください。

この機器のi.LINKインターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。
1) IEEE Std 1394a-2000, Standard for a High Performance Serial Bus
2) Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0

この規格のAM824 sequence adaptation layersの中の、IEC60958 bitstream、DVD-Audio、スーパーオーディオCDに対応しています。

各部の名称

A 電源ボタン [POWER]
電源のオン/オフを切り換えます。電源がオンのときは、ボタンの周囲が青く光ります。

B 入力切換ボタン [INPUT]
デジタル入力を切り換えます。デジタル機器が接続されている端子を選んでください。機器が接続されていない、または電源がオフのときは、ディスプレーが点滅します。(13ページ)

C メニューボタン [MENU]
設定モードになります。(15ページ)

D セレクトボタン [SELECT]
MENUボタンを押してからこのボタンを押すと、設定を変更できます。(15ページ)

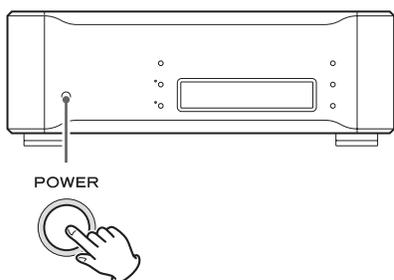
E ディマーボタン [DIMMER]
本体のディスプレーの明るさを4段階で調節できます。(13ページ)

F ディスプレー
選択されている入力など、各種メッセージが表示されます。(17ページ)

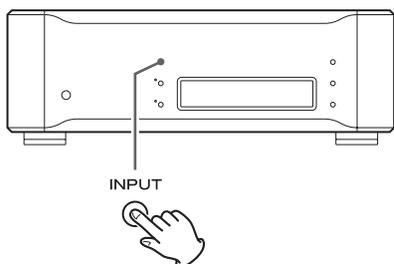
G フィルターボタン [FILTER]
デジタルフィルターのオンとオフを切り換えます。
オンのときはインジケーターが点灯します。
(14ページ)

H ワードボタン [WORD]
このボタンを一度押すと、ワードシンクの現在のモードを表示します。続けてボタンを押すと、モードが切り換わります。(14ページ)

基本操作

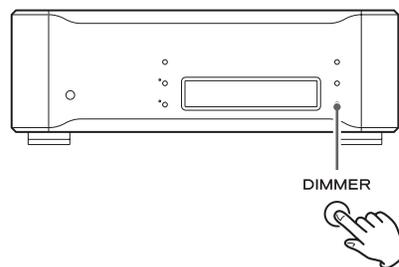
1 電源ボタンを押して電源をオンにする。

オンのときは、電源ボタンの周囲が点灯します。

- 接続してある機器の電源もオンにしてください。
- WORDボタンをWORD INに設定している場合、電源をオンにした直後はワード信号を検知できないため、ディスプレーに「WRD UNLOCK!」や「NO WORD!」が表示されますが、接続した機器の電源を入れて、ワード信号がロックされれば、表示は消えます。

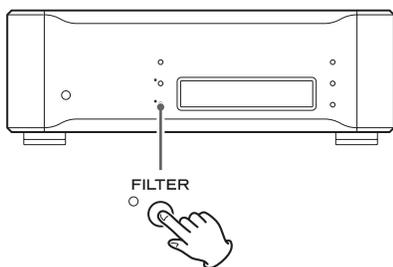
2 入力切換ボタンを押して入力を選ぶ。

ボタンを押すたびに入力が切り換わり、ディスプレーに表示されます。
入力を選んだら、ソースを再生してください。

デジタル信号を感知できない場合、ディスプレーの文字が点滅します。接続した機器の電源をオンにし、接続を確認してください。

- 使い終わったら、電源ボタンを押して電源をオフにしてください。

ディマー

本体のディスプレーとボタンインジケーターの明るさを、4段階で調節できます。

- 消灯中に再生ボタンなどを押すと、約3秒間だけディスプレーが点灯します。
- 「消灯」を選んだ場合、電源をオフにすると消灯は解除され、次に電源を入れたときはDimmer1の明るさになります。

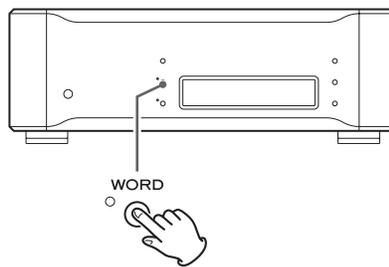
デジタルフィルター

デジタルフィルターのオンとオフを切り換えます。オンのときはインジケーターが点灯します。

オン

最大で8倍のアップコンバートを行い、D/Aコンバートされます。重厚でしっかりした音色が特徴です。

オフ

アップコンバートを行いません。
リアリティに富んだ、自然な音色が特徴です。

ワードシンク

WORDボタンを一度押すと、ワードシンクの現在のモードを表示します。続けてボタンを押すと、モードが切り換わります。

● 「W_OUT」または「WORD IN」を選ぶ場合は、あらかじめWORD SYNC端子を接続しておいてください。

W_OUT（ワード出力モード）

内部でワードクロックを生成して出力し、自分がマスターになります。
インジケーターが点灯します。

出力するワードクロックの周波数は、15ページの手順で変更できます。

WORD IN（ワード入力モード）

外部入力クロックをマスターとしてシンク動作します。このとき、WORD SYNC OUT端子からは、WORD SYNC IN端子に入力されたものと同じワードクロックが出力されます。

「WORD IN」を選ぶと、インジケーターが点滅して外部クロックをサーチします。クロックを感知してロックすると点灯に変わり、外部同期による再生が可能になります。

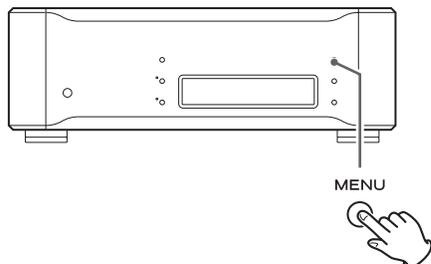
● 本機は196kHzまでのクロックに対応しており、入力された信号によって自動的に切り換わります。

● G-0/G-0sなどの高精度クロックに最適化するために、ワードクロック入力周波数レンジは±5ppmと狭くなっておりますので、接続する機器の出力精度によっては同期できない場合があります。

WORD OFF（オフ）

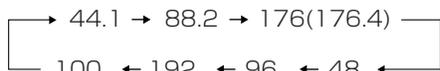
ワードシンクを使用しません。
インジケーターは消灯します。

設定を変更するには

1 MENUボタンをくり返し押して、変更する項目を選ぶ。

GUIインジケーターが点灯します。
MENUボタンを押す度に、ディスプレーの表示が変わります。

- 10秒以上放置すると、設定モードは解除されて通常の表示に戻ります。

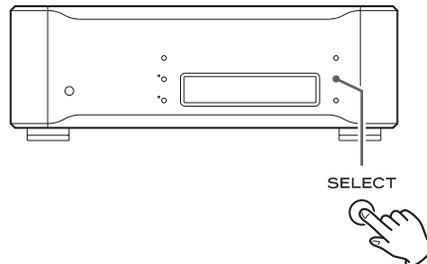
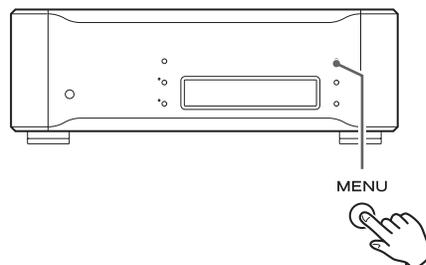
ワード出力周波数（W_OUT）
WORDボタンでOUTを選択したときに出力されるワードの周波数(kHz)を選びます。
出荷時は44.1に設定されています。

44.1 → 88.2 → 176(176.4) → 48 → 96 → 192 → 100 → 44.1

チャンネルセレクト（CH_SEL）
入力切換がi.LINKのときに、本機が受けるチャンネルを選びます。
出荷時はL/Rに設定されています。
L/R：フロント左とフロント右
C/LFE：センターとサブウーハー
LS/RS：サラウンド左とサラウンド右

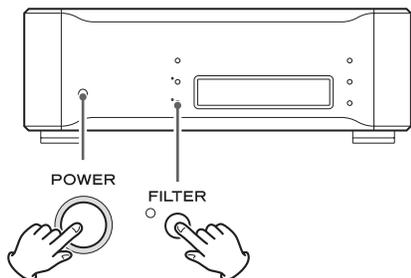
選択したチャンネルのアイコンが点灯します。

ここで選んだチャンネルと、入力される信号とが一致しないと、アイコンが点滅します。その場合はチャンネルを選び直すか、デジタル機器との接続を確認してください。

（通常の表示）
設定を終了します。

2 SELECTボタンを使って設定を変更する。

3 MENUボタンを押して、設定を終了する。

MENUボタンを1回か2回押して、ディスプレーを通常の表示に戻してください。
または、10秒以上放置すれば通常の表示に戻ります。

- 設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

工場出荷時の状態に戻すには

設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

以下の操作をすると、設定した内容を工場出荷時の状態に戻し、すべてのメモリーを消去します。

1. 電源をオフにする。
電源がオンだった場合は、オフにしてから30秒以上待ってください。

2. FILTERボタンを押しながら電源ボタンを押す。
電源がオンになりディスプレーが点灯するまで、FILTERボタンから指を離さないでください。

主な設定

D-03をエソテリックP-01/P-03/G-0/G-0sと組み合わせて使う場合の主な設定例です。

i.LINKケーブルで接続する場合

P-01の設定

OUTPUTボタン	IEEE 1394
WORDボタン	IN (G-0sを接続した場合は、Rb IN)
UP CONVERTボタン	176.4/192

P-03の設定

デジタル出力	i.LINK
WORDボタン	ON

D-03の設定

INPUTボタン	i.LINK
WORDボタン	マスタークロックとして使用する1台目はOUT、2台目と3台目はIN。 G-0/G-0sを接続した場合は、3台共IN。
W_OUT(設定)	176.4または88.2
CH_SEL(設定)	該当するチャンネル

G-0/G-0sの設定

周波数切換ボタン(A, B, C)	176.4kHzまたは88.2
FREQUENCY MODEボタン	44.1kHz

XLRデジタルケーブルで接続する場合

P-01の設定

OUTPUTボタン	XLR DUAL
WORDボタン	IN (G-0sを接続した場合は、Rb IN)
UP CONVERTボタン	176.4/192

P-03の設定

デジタル出力	DUAL
WORDボタン	ON
UP CONVERTボタン	176.4またはDSD

D-03の設定

INPUTボタン	DUAL
WORDボタン	マスタークロックとして使用する1台目はOUT、2台目と3台目はIN。 G-0/G-0sを接続した場合は、3台共IN。
W_OUT(設定)	176.4または88.2
CH_SEL(設定)	該当するチャンネル

G-0/G-0sの設定

周波数切換ボタン(A, B, C)	176.4kHzまたは88.2
FREQUENCY MODEボタン	44.1kHz

メッセージ一覧

ディスプレーの右側に– – – が表示される。

入力された信号に問題があります。
PCMまたはDSD以外の信号は入力しないでください。
デジタル機器との接続を確認してください。

XLR1、XLR2、DUAL、RCA1、RCA2、OPT、またはi.LINKが点滅する。

デジタル信号を感知できません。INPUTボタンを押して、デジタル機器が接続されている端子を選んでください。
接続した機器の電源をオンにしてください。接続した機器の設定を確認してください。

LOOP ERR!

i.LINKの接続がループになっています。
(11ページ)

NO WORD!

WORDクロックが入力されていません。

UNKNOWN

i.LINKケーブルで接続されている機器の機種名が不明です。

WRD ERROR!

入力されているソースの周波数がワード周波数と一致していません。スーパーオーディオCDの再生時は、ワード周波数は44.1、88.2、または176.4kHzにしてください。

WRD LCKING

入力されているWORDクロックにロック中です。

WRD UNLCK!

入力されているWORDクロックにロックできません。
接続したクロックジェネレーターの周波数設定を確認してください。本機には、±5ppm以内のクロックジェネレーターを接続してください。

チャンネルアイコンのLとRが点滅する。

Dual AES対応の機器との接続で、LとRが逆に接続されています。XLRケーブルを正しく接続してください。

● 通常は、ディスプレーの左側に「現在の入力」またはi.LINKケーブルで接続された機器の「機種名」、右側に、CD再生時は「入力されているデジタル信号のサンプリング周波数」、スーパーオーディオCD再生時は「DSD」が表示されます。

● i.LINKのフローレートコントロールが機能しているときは、Fs表示の右側に「F」を表示します。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方法も合わせてご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

電源が入らない。
➡ 電源プラグをコンセントに差し込んでください。
➡ 電源ボタンを押してオンにしてください。

音が出ない。
➡ アンプやデジタル機器との接続を確認してください。

入力インジケーターが点滅する。
➡ 選択されている入力端子に接続されている機器の電源を入れてください。
➡ 選択されている入力端子が正しく接続されているか確認してください。

「プツ、プツ……」と周期的なノイズが出る。
➡ D-03がワードシンク・モードなのに、接続している機器がワードシンク・モードになっていない可能性があります。ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。
通常はWRD ERROR表示をしますが、D-03のワード・エラー検出限界よりもさらに小さなずれしかない場合、この現象が起こることがあります。

WORDインジケーターが点滅する。
➡ ワードクロックが入力されてない時は、ワードシンクはオフにしてください。(14ページ)
➡ 同期できない信号が入力されている可能性があります。ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。

「NO WORD!」が表示される。
➡ ワードクロックが入力されていません。外部マスタークロックジェネレーターとの接続、マスタークロックジェネレーターの電源や出力状態を確認してください。
➡ ワードクロックが入力されていない時は、ワードシンクはオフにしてください。(14ページ)

「WRD ERROR!」が表示される。
➡ 同期できない信号が入力されている可能性があります。ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。
➡ ワード・シンク機能のない機器をお使いの場合は、本機のWORDボタンをオフにしてください。

「WRD UNLOCK!」が表示される。
➡ 出力周波数精度が±5ppm以内のクロックジェネレーターと接続してください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源を切り、約1分後に始めから操作してください。

ブロック・ダイアグラム

LINE OUT
Lch
LINE OUT
Rch
HOT
COLD
ディスクリート出力アンプ
差動アンプ
I-V変換アンプ
DSD・PCM対応DAC AD1955
DAC
DIGITAL FILTER
8倍アップコンバート
ON
OFF
「FILTER」ON/OFF
RAM-Link Ⅲ ジッタ除去
AUDIO CLOCK
左チャンネル・アナログ回路
右チャンネル・アナログ回路（左チャンネルと同一）
アナログ電源回路
Rコア電源トランス
L
R
ES-LINK Ⅱ 暗号復号化
デジタル回路
データクロック分離
INPUT SELECT
ON/OFF
i.LINK フローレート制御
XLR1(L)
XLR2(R)
RCA1
RCA2
OPTICAL
i.LINK
DUAL AES対応 ES-LINK対応
DIGITAL INPUT
32KHz~192KHz
クロック回路
オーディオクロック生成
水晶発振器
22.5792 MHz
24.5760 MHz
PLL
WORD CLOCK
ラインドライバ
WORD IN
WORD OUT
WORD SYNC

仕　様

一般

電源 . . . . 100V AC 50-60Hz
消費電力. 24W
外形寸法 (WxHxD、突起部含まず)
445×159×420(mm)
質量 約27kg

デジタル入力

入力フォーマット . . . . DSD
リニアPCM(32～192kHz、16～24bit)

i.LINK(AUDIO)端子×2

XLR端子×2
（Dual AES入力時はXLR1とXLR2の2端子を使用）
入力レベル. 5.0Vp-p/110Ω

RCA端子×2
入力レベル 0.5Vp-p/75Ω

光デジタル入力端子×1
入力レベル. . . . . −24.0～−14.5dBm peak

オーディオ特性
（192kHz、24bit、デジタルフィルター：オン）

出力レベル
アナログ . . . . RCA：2.1Vrms/10kΩ (1kHz)
XLR：2.1Vrms/10kΩ (1kHz)
周波数特性. . . . . 2Hz～70kHz, ±3dB
2Hz～25kHz, ±0.5dB
S/N . . . . 115dB (JEITA)
全高調波歪率 . . . . 0.0006% (JEITA)

ワードシンク

入出力レベル TTLレベル相当/75Ω
ワードクロック周波数 （入力/出力）
44.1, 88.2, 176.4, 48, 96, 192, 100 (kHz)
出力周波数精度 . . . . ±0.5ppm(出荷時)
入力周波数レンジ . . . . ±5ppm

付属品

電源コード×1
フェルト×3枚
取扱説明書×1
ご愛用者カード×1

JEITAは電子情報技術産業協会規格に定められた測定法によるものです。

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

■保証書

保証書はご愛用者カードと引き換えに発行いたします。
添付のご愛用者カードに必要事項を御記入の上、速やかにお送りください。保証書が届きましたら、保証内容をご確認の上、大切に保管してください。
保証期間はお買い上げ日から一年です。

無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、弊社サービス部門が無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、保証書をご提示の上、弊社サービス部門またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前に弊社サービス部門にお問い合わせください。なお、離島および離島に準じる遠隔地への出張修理を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
3. ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社サービス部門にご連絡ください。
4. 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
   (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
   (2) お買上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
   (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
   (4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
   (5) 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
   (6) メンテナンス
   (7) 保証書の提示がない場合
   (8) 保証書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
6. 保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

18ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。
なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。
部品代：修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：D/Aコンバーター　D-03
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。
この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

株式会社ティアック エソテリック カンパニー

〒180-8550　東京都武蔵野市中町3-7-3　http://www.teac.co.jp/av

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室

0570-000-701
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒180-8550　東京都武蔵野市中町3-7-3
電話：0422-52-5091 / FAX：0422-52-5194

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター

0570-000-501
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-7
電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

PRINTED IN JAPAN　0306·MA-1003C